

科 目 名	理科教育法Ⅲ				
配 当 学 年	3 年	必修・選択	選択	CAP制	対象外
授 業 の 種 類	講義	単 位 数	2 単 位	授業回数	15
授 業 担 当 者	長谷川 誠		単位認定責任者	長谷川 誠	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容					
授業科目の概要	本講義では、まずいくつかの国際的な学力調査を紹介し、日本の位置を確認する。その後、いくつかの海外諸国における理科教育システムの現状やその特徴を自らが調査することを通して、それぞれの長所及び短所を理解する。さらに、日本の理科教育との比較を行うことで、自らの理科教育の実践に活用し得る特徴の有無を考える。				
授業科目の到達目標	1. 日本の理科教育の現状ならびに課題について、自分の言葉で説明できる。 2. いくつかの海外諸国の理科教育システムの特徴について、自分の言葉で説明できる。 3. いくつかの海外諸国の理科教育システムと日本の理科教育システムとの共通点・相違点について、自分の言葉で説明できる。 4. 自らの理科教育の実践において活用すべき海外の理科教育の特徴を、自分の言葉で説明できる。 5. 授業内容をより効果的なものにするための手段やツールの活用の必要性について、自分の言葉で説明できる。				
学修成果評価項目 (%) および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	%			
	専門知識	20 %	プレゼンテーション、ならびに提出課題で評価する。		
	倫理観	%			
	主体性	%			
	論理性	%			
	国際感覚	80 %	プレゼンテーション、ならびに提出課題で評価する。		
	協調性	%			
	創造力	%			
	責任感	%			
授業の展開					
1.	ガイダンス-日本の理科教育の現状				
2.	国際的な学力評価の手法と日本の位置				
3.	諸外国の教育システムの概要				
4.	フィンランドの理科教育(1)-概要-				
5.	フィンランドの理科教育(2)-特徴と日本のシステムとの比較-				
6.	イギリスの理科教育(1)-概要-				
7.	イギリスの理科教育(2)-特徴と日本のシステムとの比較-				
8.	アメリカの理科教育(1)-概要-				
9.	アメリカの理科教育(2)-特徴と日本のシステムとの比較-				
10.	中国の理科教育(1)-概要-				
11.	中国の理科教育(2)-特徴と日本のシステムとの比較-				
12.	シンガポールの理科教育(1)-概要-				
13.	シンガポールの理科教育(2)-特徴と日本のシステムとの比較-				
14.	理科教育の手法の研究の動き				
15.	各国と日本の理科教育システムの比較・検討				

授 業 外 学 修 に つ い て	<p>授業外学修の内容については、こちらから指示しない。各自が自分の判断で、必要と思われる内容を学習すること。例としては、以下のような内容が挙げられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 次回の講義内容について必要な予習を行って専門用語などを理解しておく。 ・ 海外諸国の理科教育システム概要や特徴を自ら調査する。 ・ 海外諸国の理科教育と日本の理科教育との比較（共通点及び相違点の有無など）、ならびにそこから見出し得る自らの理科教育の実践に活用すべき特徴などについては、プレゼンテーションとして発表してもらうので、必要な準備を授業外学修として進める。 				
教 科 書	必要に応じてプリントを配布する。				
参 考 文 献	必要に応じて講義の中で適宜指示する。				
試 験 等 の 実 施	定期試験	その他の テスト	課題・ レポート	発表・プレゼンテ ーション	取組状況等
	×	×	○	○	○
成 績 評 価 の 割 合	0 %	0 %	30 %	50 %	20 %
成 績 評 価 の 基 準	<p>本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。</p> <p>秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69点～60点）、不可（59点～0点）</p>				
試 験 等 の 実 施、成 績 評 価 の 基 準 に 関 す る 補 足 事 項					

（理科教育法Ⅲ）